

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5年計画の4年目)

## 1. 研究課題

前近代ユーラシア東方の戦争と外交

Warfare and Diplomacy in Pre-modern Eastern Eurasia

## 2. 研究代表者氏名

古松崇志

Furumatsu Takashi

## 3. 研究期間

2018年4月-2023年3月(4年目)

## 4. 研究目的

ユーラシア東方は、草原・砂漠から成る乾燥地帯の中央ユーラシア東部と世界屈指の農耕地帯である中国本土とにまたがる地域である。そこは、古くから北の遊牧・狩猟民と南の農耕民という異なる生態環境に根ざした生業を持つ人びとが接触・交流する場であった。北方の遊牧・狩猟民集団は、前近代には最強だった騎馬軍事力を武器として、何度も強大な遊牧王朝を形成して南の中国王朝と対峙し、ときには中国本土を軍事制圧して支配下に入れることもあった。北方草原の遊牧民と中国本土の農耕民とあいだの対立・共存・支配被支配・融合といった多様な関係性は、ユーラシア東方の歴史の基調をなすといつてよい。本研究では、12世紀前半にマンチュリアより勃興してユーラシア東方に覇を唱えた金(女真)と宋朝との関係をおもに記した南宋時代の史書『三朝北盟会編』を取り上げる。文献の精読をつうじて、ユーラシア東方における遊牧王朝と中国王朝とのあいだの戦争と外交の実態を実証的に解明するとともに、金の華北征服という北方からの衝撃が、当時の中国の政治・社会・文化にいかなる影響を及ぼし、いかなる変容をもたらしたのかという、中国史上の重要な問題を考究することをも目指すものである。

In Eastern Eurasia, there have been constant exchanges and interactions between pastoral nomads of the eastern part of the Eurasian Steppe and settled agriculturalists of China proper. Northern pastoral nomads founded several powerful nomadic dynasties, based on a strong cavalry force, which was the most preeminent military technology in pre-modern times; they confronted the Chinese dynasties and even conquered China several times. Relations between pastoral nomads from the steppe and agrarian people of China were dynamic and diverse, including military conflict, domination, coexistence and fusion. They can be

regarded as the basic patterns of Eastern Eurasian history. This project will focus on the Southern Song history book "Sanchao beimeng huibian", which mainly deals with the diplomatic relations of the Song dynasty with the Jin dynasty of the Jurchen people during the first half of the 12th century, when the Jin dynasty established hegemony in the multi-state system of Eastern Eurasia. We will use the documents included in this book to analyze the characteristics of warfare and diplomacy between Nomadic dynasties and Chinese dynasties. In addition, we will examine the impact and influence of the Jin conquest of Northern China on the politics, society and culture of China, including Northern China under the Jin and Southern China under the Southern Song.

#### 5. 本年度の研究実施状況

研究テーマの「前近代ユーラシア東方の戦争と外交」について具体的に考察するための題材として、南宋時代の史書『三朝北盟会編』の会読を進めた。16回にわたって『三朝北盟会編』の会読をおこない、『中華再造善本』所収の中国国家図書館（北京図書館）所蔵の明鈔本を底本に、テキストの校訂・訳注作業を進め、巻十四から巻十八までを読み終えた。

#### 6. 本年度の研究実施内容

2021-04-13	『三朝北盟会編』 卷十四会読	発表者 齊藤茂雄 大阪大学
2021-04-27	『三朝北盟会編』 卷十四会読	発表者 濱野亮介 大谷大学
2021-05-11	『三朝北盟会編』 卷十四会読	発表者 藤原崇人 龍谷大学
2021-05-25	『三朝北盟会編』 卷十四会読	発表者 武田和哉 大谷大学
2021-06-08	『三朝北盟会編』 卷十五会読	発表者 高井たかね 人文科学研究所
2021-06-22	『三朝北盟会編』 卷十五会読	発表者 矢木毅 人文科学研究所
2021-07-13	『三朝北盟会編』 卷十五会読	発表者 飯山知保 早稲田大学
2021-07-27	『三朝北盟会編』 卷十五会読	発表者 伊藤一馬 大阪大学
2021-10-12	『三朝北盟会編』 卷十六会読	発表者 毛利英介 人文科学研究所
2021-10-26	『三朝北盟会編』 卷十六会読	発表者 古松崇志 人文科学研究所
2021-11-30	『三朝北盟会編』 卷十六会読	発表者 福谷彬 人文科学研究所
2021-12-14	『三朝北盟会編』 卷十七会読	発表者 藤本猛 京都女子大学
2021-12-28	『三朝北盟会編』 卷十七会読	発表者 遠藤総史 大阪大学
2022-01-11	『三朝北盟会編』 卷十七会読	発表者 岩本真利絵 釧路公立大学
2022-01-25	『三朝北盟会編』 卷十八会読	発表者 船田善之 広島大学
2022-02-08	『三朝北盟会編』 卷十八会読	発表者 井黒忍 大谷大学
2022-02-22	『三朝北盟会編』 卷十八会読	発表者 古松崇志 人文科学研究所

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

古松崇志、岩井茂樹、矢木毅、村上衛、高井たかね、福谷彬、毛利英介

学外

飯山知保(早稲田大学文学学術院)、井黒忍(大谷大学文学部)、伊藤一馬(大阪大学大学院文学研究科)、岩本真利絵(釧路公立大学)、遠藤総史(名古屋大学大学院文学研究科)、小野達哉(同志社大学文学部)、加藤雄三(専修大学法学部)、木村可奈子(滋賀県立大学人間文化学部)、小林隆道(神戸女学院大学文学部)、齊藤茂雄(大阪大学大学院文学研究科)、承志(追手門学院大学基盤教育機構)、城地孝(同志社大学文学部)、武田和哉(大谷大学文学部)、橋本雄(北海道大学文学研究科)、濱野亮介(大谷大学文学部)、藤本猛(京都女子大学文学部)、藤原崇人(龍谷大学文学部)、船田善之(広島大学人間社会科学研究科)、古畑徹(金沢大学人間社会研究域)、水越知(関西学院大学文学部)、渡辺健哉(大阪市立大学文学研究科)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
学内(法人内)	1	7		1	1		107		15	15	
国立大学	5	6		2	1		55		25	15	
公立大学	3	3		2			17		17		
私立大学	9	12	1				70	1			
大学共同利用機関法人											
独立行政法人等公的研究機関											
民間機関											
外国機関											
その他 ※											
計	18	28 (0)	1 (0)	5 (0)	2 (0)	0 (0)	249 (0)	1 (0)	57 (0)	30 (0)	0 (0)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数  
なし

11. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由  
なし

12. 次年度の研究実施計画

研究テーマの「前近代ユーラシア東方の戦争と外交」について具体的に考察するための題材として、南宋時代の史書『三朝北盟会編』の会読を継続する。『中華再造善本』所収の中国国家図書館（北京図書館）所蔵の明鈔本を底本に、テキストの校訂・訳注作業を進め、巻十九から読み進める予定である。

13. 次年度の経費  
なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

これまでに『三朝北盟会編』を会読した成果をとりまとめ、校訂テキストを整理し、ウェブ上に掲載する。そのうち一部については、校訂テキストと訳注を公刊する。